

山岡 淳先生を偲んで

木村 友昭

(本学会常任理事, 一般財団法人 MOA 健康科学センター業務執行理事・主任研究員)

日本大学名誉教授であり、本学会名誉会員の山岡淳先生が令和3年8月16日、静岡県熱海市内の病院でご逝去になられました。享年92歳でした。

山岡先生は、本学会の大会に、毎年欠かさず出席されておられました。令和2年の大会は、コロナ禍のため中止となりましたが、京都のホテルを早々に予約され、大変楽しみにされていました。したがって、令和元年の日大商学部での大会が先生にとりまして、最後の大会になりました。その大会の懇親会では、先生が長年、顧問を務められた日大オーケストラの演奏が披露され、とてもご満悦の様子でした。また、内田誠也先生が優秀大会発表賞を受賞し、その共同研究者として、一緒に表彰されました。令和3年の山形大会の打ち合わせのために、何度か電話をさせていただきましたが、ずっとお留守でした。後で伺いましたが、入院されていたそうです。4月になり、ようやく連絡が取れ、今年度の大会がWEBで行われることになったことをお伝えしました。「それで、誰がやるの？ 松田くんか。疲れたので、もう切るよ。」という言葉が最後でした。



山岡 淳 先生

山岡先生は、昭和4年7月25日、福岡県でお生まれになり、小学生のときに、神奈川県に引っ越されました。旧制の第八高等学校（名古屋市）を卒業後、昭和26年に日本大学文学部心理学科に編入学されました。当初は、医学部進学を希望されていたようですが、「脳や生死判断の研究は医学部でなくても、日本大学の心理学科でも取り扱っている」との情報を知人から教わったとのことでした（応用心理学のクロスロード 7）。

昭和33年に日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程満期退学後、日本大学文理学部専任講師などを経て、昭和47年に日本大学教授、平成9年に文京女子大学教授（文京学院大学に校名変更）を歴任されました。また、昭和63年に、日本大学から「瞑想の生理心理学的研究」により文学博士の学位が授与され、平成11年に本学会名誉会員に推戴されました。その後、大学での教育と研究の功績が認められ、平成21年に瑞宝中綬章を叙勲されました。

先生と私どもの財団との関わりは、平成3年に始まります。福岡県にMOA九州生命科学研究所が設立されたとき、研究所の理事に就任されました。MOA健康科学センターの研究報告集第1巻（1993）に、先生のご論文「気功の生理心理学的研究」が掲載されました。平成15年、文京学院大学教授のお仕事が常勤でなくなり、時間的に余裕ができたこともあり、当財団の研究顧問に就任され、定期的にご指導をいただくようになりました。当時は、当財団の研究所が静岡県熱海市にあり、先生は東京のご自宅から通っておられたのですが、その後、熱海市に引っ越されました。本学会でも共同研究者として、多くの発表を行いました。私がとくに印象に残っているのは、先生から助言をいただき、自主企画ワークショップを開催したことです。平成21年の第76回大会（九州大学）で、「自然美や芸術が受け手の心理に及ぼす影響」、翌年の第77回大会（京都大学）で、「日本の伝統的な文化・芸術の心理的効果について考える」、さらに第78回大会（信州大学）で、「自然や植物とのふれあいにおける情操的・心理的効果」を企画しましたが、その企画内容、登壇者の依



日本応用心理学会第86回大会・懇親会にて、令和元年8月

頼と打ち合わせなど、すべてにおいて、細かく助言・指導をいただきました。

先生は、大変なお酒好きで、学会などの出張時はもちろん、通常のお仕事の後でも、お酒をご一緒する機会に恵まれました。先生は、大変記憶力がよく、子ども時代のことから、数々の思い出などをお話いただきました。脳波計「木製号」での苦労話、ウィーン大学に留学されたときの思い出、大きな病気を乗り越えられてきたことなど、若手の私どもに、大きな感銘を与えてくださいました。本学会には、さまざまな分野の先生方がおられますが、近年、心理学の分野が細分化されてきたことを憂いておられ、心理学の統合が必要だ、心理学に哲学が必要だ、スピリチュアリティの研究が必要だと、常に前向きなご提案をされていました。お酒が入っていないくても、これらの議論で盛り上がっていました。コロナ禍のため、みんなで集まってお酒を飲む機会がなくなり、本当に残念に思います。また、とても筆まめな先生でした。最近、高齢を理由で年賀状を控える人も多いのですが、先生はご晩年まで、ずっと年賀状を出されましたし、手書きのお手紙や葉書をしばしば受け取りました。手紙に古い記念切手が貼ってあることもあり、中には1964年の東京五輪の切手もありました。これらも、ささやかな思い出の一つです。

先生は、8月20日、熱海市内において、キリスト教式の家族葬で見送られました。お好きだった讃美歌を参列者一同で合唱し、お別れをしました。多くの人に慕われ、多くの人を育てられた先生、多くの人の心の中にずっと生き続けることでしょう。心よりご冥福をお祈りいたします。

参考文献)

山岡 淳・菅野久信・大村政男・楢村憲之・山本麻子 (1993). 気功の生理心理学的研究 (第1報) MOA 健康科学センター研究報告集, 1, 261-271.

山岡 淳 (2015). 私の心理学事始め 応用心理学のクロスロード, 7, 36-37.